

推入

おどり

作次口朝旗



舞方おどり



権六おどり



このはなしは、

山田村で人々に親しまれてきた

権六おどりに伝わる

むかしばなしである。



むかし権六という

宮大工がいた。

中国地方長門の国

あかまが関の人で

いつの頃からか山田村に

住んでいたらしい。



腕はいいが酒と女が好きで

へんこつで

気にいらないうことがあったら

何にちも

働かなんだそうな。



そんな種六が

圓照寺のふしんしてた。

日ほう、さすがにええ腕や

圓照寺のおしょうさん

落慶も近いと

よろこんどった。



このおしょうさん男前で
声がよくてお経が上手なもんで

村のおなご衆の
人気のまとやった。



村に十六娘のお杉がいた。

これまたたべっぴんで。

横を通るだけで

村の男衆

目をまわしたそうな。



そのお杉が

圓照寺のおしょうさんに

ほれよかった。

そんなうわさが

村じゅうにひろまった。



その時からやった

権六圓照寺のふしん。

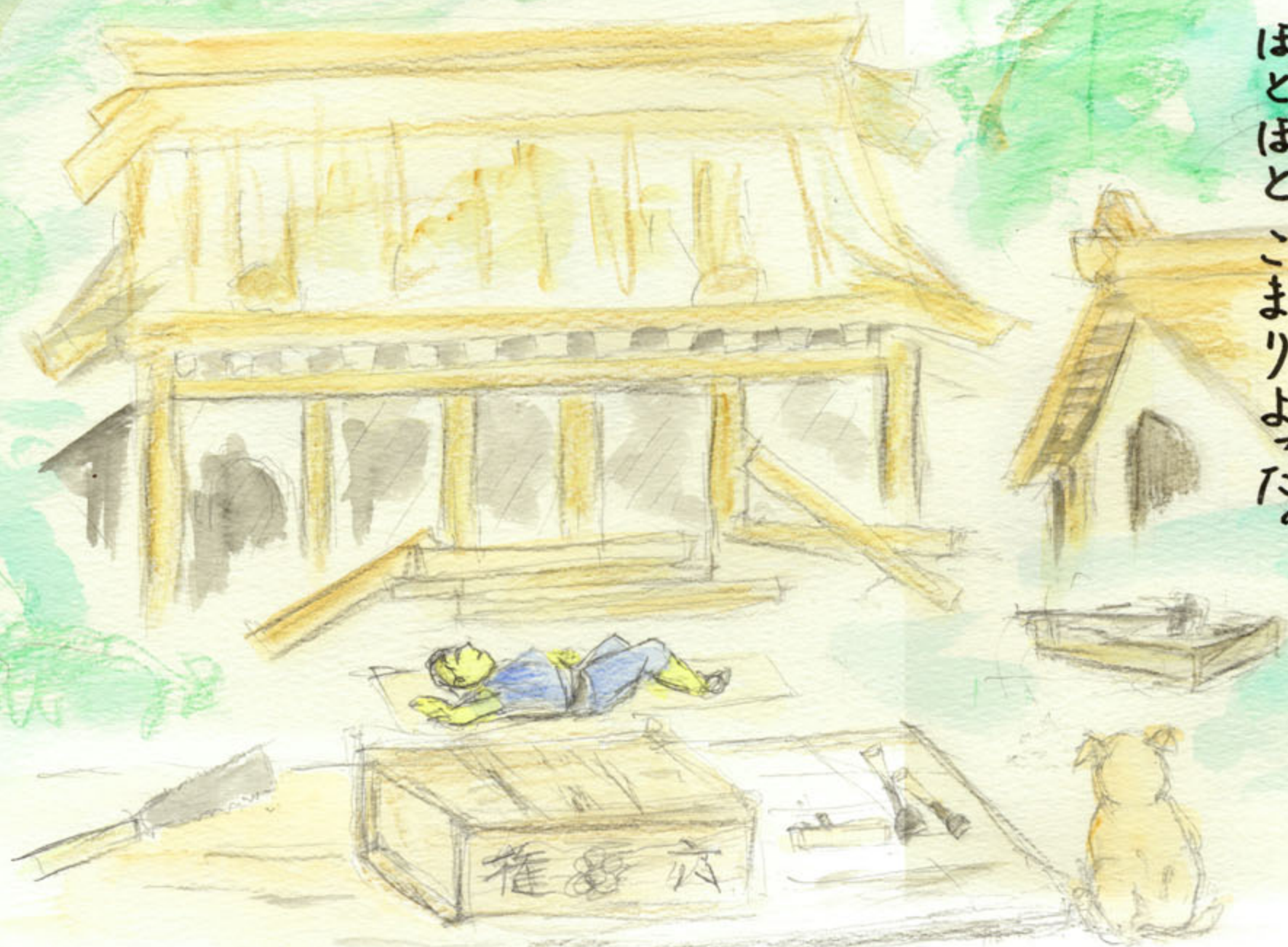
ぴたっとやめてしまひよった。

こうなったら誰がなんらやうても

テコでも腰をあげようらん。

おしろうさんも檀家の衆も

ほとんどこまりよった。



お杉はお杉で

おしょうさん恋しゅうて

『いっそのこと』と

顔赤らめもって文かいて

檀家の善兵衛さんに

ことづけよった。



文箱をあずかって

善兵衛さんも困った。

しあんのあげく

『せや、圓照寺のためや』ちゅうて

その文、権六に

わたしてしもた。



なんと権六、その日から

ふしんにせいだして

圓照寺、いっぺんにできてしまった。

村の衆もみごとなできてきばえに

よろこんでお寺にあつまりよった。



権六もうれしいて

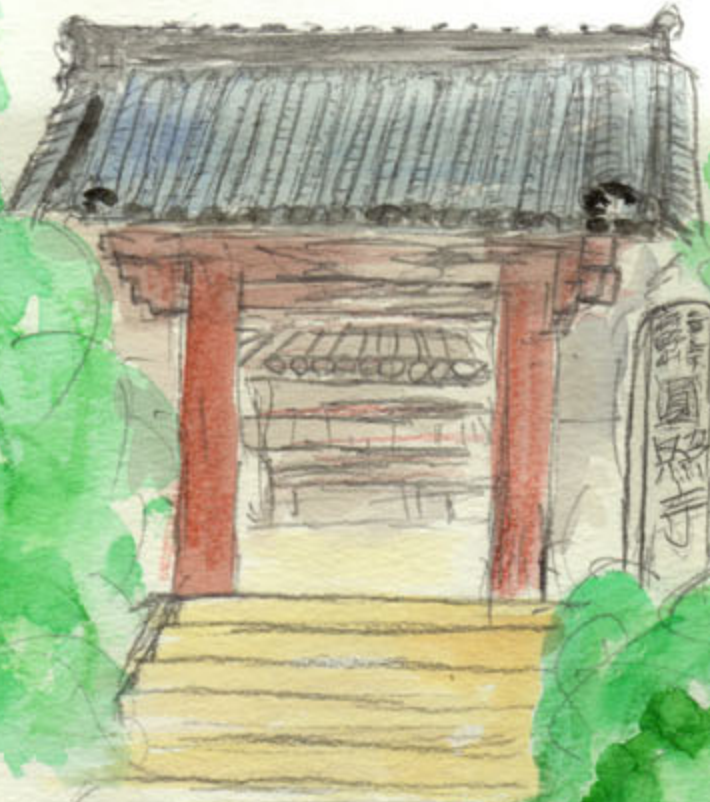
うかれだした。

みごとになってきた伽藍に

右手、左手をかざしをもって

遠目、近目でみようとして

前へいったり、後へいったりしてた。



村の衆も種々のしぐさが

おもしろうて

前や後へうごきだし、

おどりが

はじまった。



このときのおどりが
権六おどりとして伝わったらしい。

まえだれ池にはまっけてしもた。

うかれすぎでとうとう

権六はうたいもっておどりもって

『文箱のつかいは善兵衛さん』

『お杉十六いろけがでたか』





本書の一部または全部を無断で
使用、複製することを禁止します。

吹田市山田西1-24-5-508

TEL 06-6877-0961

製作にあたって

圖照寺、権六おどり保存会の
ご協力をいただきました。

改めてお礼申しあげます。

平成二十四年一月

阪口朝雄

